

てい むねてつ
丁 宗鉄さん 64

顔

「食べる漢方薬」として「朝食カレー」のダイエット本を出した漢方医。4月、創立9年目の日本薬科大学（埼玉県伊奈町）の学長となった。漢方専門医が国内の薬科大学のトップに就くのは初めてだという。

「漢方診療では、患者からよく話を聞く。薬剤師に期待されている、患者との対話能力向上のため、私の経験を伝えたい」と抱負を語る。

苦勞人だ。高校在学中、リヤカーを引き、家業の鉄スクラップ業を手伝いながら医学部に入学した。歴史好きで、古くから伝わる漢方にひかれた。医学生時代から大家と呼ばれる漢方医を訪ね、臨床技術を学んだ。

持論は「病気を未然に防ぐ知識をもった薬剤師が地域で求められる」。授業は「統合医療」を担当。予防を重視する漢方と、検査に基づく治療が中心の現代医療を合わせたものだ。「健康全般の相談に乗れる薬剤師を目指してほしい」と学生に説く。

仕事の合間に学長室で約1200人の在校生の顔写真付き名簿をめくる。「なるべく名前前で呼びかけたいと思って」。あらためて教育という仕事の魅力を再確認する日々だ。

（医療情報部 渡辺理雄）



撮影・増田教三